

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 岡田 暁典

論 文 題 目

**Impaired pain processing correlates with cognitive impairment in Parkinson's disease**


(パーキンソン病において痛覚処理障害は認知機能障害と相関する)

論文審査担当者

主 査


委員

名古屋大学教授

若林 俊彦 


委員

名古屋大学教授

葛 谷 雅久 


委員

名古屋大学教授

信 守 公 彦 

指導教授

名古屋大学教授

勝野 雅央 

## 論文審査の結果の要旨

今回、パーキンソン病 (PD) 患者に対して、表皮内電極を用いた痛み関連脳電位を測定し、認知機能が痛み関連脳電位と相関することが判明した。認知機能のうち、特に注意障害と記憶障害が痛み関連脳電位と相関を示し、注意障害と記憶障害が痛み認知と関連し、前部帯状回を中心とする辺縁系の機能低下が関与している可能性が示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 海外においては主に、レーザー刺激により誘発される痛み関連脳電位の研究が行なわれており、痛み関連脳電位は中枢内の pain pathway の障害すなわち痛み認知の障害と考えられている。本研究での痛み関連脳電位の振幅低下も同様に pain pathway の障害を反映していると考えられている
2. 本研究では治療に対する、痛み関連脳電位の振幅は評価していないが、臨床において PD 患者に対し、ドーパミン製剤の使用後疼痛の程度が改善する例を経験するため、治療により痛み関連脳電位の振幅の改善が期待できると考えられる。
3. 注意障害は一般的にコリン神経系と網様態賦活系の関与が指摘されている。本研究ではコリン神経系との関連が深い視空間認知と痛み関連脳電位との相関は認めなかった。痛み関連脳電位は前部帯状回を中心とする辺縁系から導出される電位であり、本研究結果からは注意障害と辺縁系の関与が示唆された。

以上の理由により、本研究は博士 (医学) の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	岡田曉典
試験担当者	主査	若林俊彦	若谷雅久	尾崎
	指導教授	勝野雅夫		

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 痛み関連脳電位の振幅低下の意味
2. 痛み関連脳電位の治療に対する変化
3. 注意障害と痛み関連脳電位の関連性

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、神経内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。